中部電力　公募型エネルギー・環境教育プログラム開発

年間を通した，海にかかわる表現活動の実践

（図画工作科・第１学年対象）

三重大学教育学部附属小学校　　教諭　猪　泰介

Ⅰ　はじめに

昨年度，宇宙環境に目を向けて年間を通して実践を行った。子どもの夢溢れる発想や，ダイナミックな作品が生まれ，非常に魅力的な活動になるとともに，数時間の図画工作の授業を通して子どもの宇宙への思いが，高まったことが成果として挙げられる。

本年度は，もう少し身近な環境として，海に注目し，図画工作の授業を通しての子どもの思いの変容について，昨年度と同様の方法を用いて高まりが見られるか確かめる。

海は，津市・松阪市・鈴鹿市といった海に面した地域に住む子どもにとって身近で馴染み深い存在である。様々な形や色に溢れた生物が泳ぎ回り，目に見えない小さな微生物から大型の魚類・海獣類・そして史上最大のクジラまで膨大な種類・数の生物が棲息している。海水浴や潮干狩りといった直接的な関わりもあれば，本やテレビといった間接的な関わりもあり，一人ひとりがそれぞれの海への思いをもっていると考えた。

砂浜のように実際に遊び，波や砂の感触を実感できる場所もあれば，深海のような未知の場所もあるなど，海とは現実と空想が入り交じり自由に思いを広げられる場所であると考える。

このように，海も宇宙と同様に未知なる部分が広がっている点や，さらには多様な生き物に溢れている点が子どもの発想を広げ，夢のある活動に取り組めると考えた。

本年度も年間を通して関連する内容の題材を行った。（学期に１～２回程度）

〇実践題材

1.「1 シーすいぞくかんへ　ようこそ！」

水槽に見立てた教室の窓に，海の生き物の形に切り取った透明折り紙を貼り付け，１シーすいぞくかんを制作する活動。

2.「ふしぎのうみを　もりあげよう」

無造作に色や模様が描かれた１枚の大きな紙を土台として，ふしぎのうみの様子や生き物をオイルパステル（以下，クレパス）や平面材を用いて自由に表す活動。

3.「りゅうぐうじょうへいこう」

テープや紐や細い紙が自由に巻かれた屋内用ジャングルジムを土台とし，竜宮城の装飾や生き物を自由に形や色で表す活動。

※（以下　図表番号は略す。）

Ⅱ-1　実践 1「1 シーすいぞくかんへ　ようこそ！」の概要

（1）題材について

本題材は，教室の窓を水槽に見立て，グループで考えた水槽の名前に合うように，海の生き物の形に切り取った透明折り紙を窓に貼り付け，１シーすいぞくかんを制作する活動である。水族館で泳ぎ回る海の生き物を思い浮かべながら，見る側ではなく展示する側（つくる側）になって，楽しく表す姿を期待した。

描く土台は，海水の透明な雰囲気を表すために，紙ではなく窓を利用した。透明で，屋外の天気や時間帯，または見る位置によっても表情が変わる教室の窓を使用することで，図工の時間外でもその表情とともに水族館の雰囲気を楽

しめるようにした。また，ガラスの透過性を活かすため，海の生き物を形づくる折り紙もセロハンのようなカラーの透明折り紙を用いた。

本題材はグループで制作した。各グループに割り当た 1 枚の窓を水槽に見立て，その水槽に名前をつけ，水槽の中の飾り付けをしたり生き物を泳がせたりさせた。最後に，教室を 1 シーすいぞくかんにして各グループの水槽の鑑賞を行った。

(2) 学習計画（全 6 時間）

1. ガラスに透明折り紙をはろう。・・・1 時間
2. 水槽を飾ろう。・・・・・・・・・・・1 時間
3. 水槽に海の生き物を泳がせよう。・・3 時間
4. 水族館ツアーに行こう。・・・・・・1 時間

(3) 授業の実際

第 1 時では，ガラスに自由に透明折り紙を貼り付けた。子どもは，透明折り紙を自由に切り取りながら，材質に慣れたり，ガラスに貼る際の水の付き具合などを確かめたりしながら，透き通る透明折り紙の美しさや面白さを楽しんでいた。

第 2 時では，水槽の製作に取りかかった。本題材の流れを伝えた後，グループに分かれ，海や海の生き物に対する自由な思いをもとに，「にじいろすいそう」「さかないっぱいすいそう」などの名前を決めていた。その名前をもとに，水槽にどんなものがあると良いか，飾りはどうするか，思いついたことを自由に水槽に表した。

第 3 時では，各グループの水槽に，泳がせたい海の生き物を表した。始めに自由に水槽について話をさせ，この時間にやりたいことを伝え合う時間を設け制作に移った。子どもは，思いつくままに海の生き物を透明折り紙から切り取りガラスに貼り付け，泳がせていた。最後にすいぞくかんカードと水槽を見比べさせふり返りを行った。

第 4 時では，ガラスの透過性を活かし，両面からの製作を行った。水槽の名前に着目させ，この時間は，よりその名前に合うように海の生き物を泳がせることを伝えた。制作前に，グループで自分がやりたいことや思いついたこと伝える時間をとり，製作は，前時と同様に水槽に泳がせたい海の生き物を泳がせた。製作後にすいぞくかんカードと水槽を見比べさせふり返りを行った。

第 5 時では，カラーペンも用いて仕上げの製作を行った。水槽を完成させるために，あと何があると良いか自由に思いついたことをグループで伝え合い，製作は，さらに細かい箇所のかき込みや仕上げを行わせた。

第 6 時では，教室を水族館に見立て，鑑賞を行った。グループ毎に，水槽の名前と自分たちがどんな海の生き物を泳がせたのか発表を行った。発表の後，水族館ツアーとして，グループや個人で自由に鑑賞の時間を設けた。

Ⅱ-2　実践 2「ふしぎのうみを　もりあげよう」の概要

(1) 題材について

本題材は，前題材で行った泡を使った造形遊

びの跡を土台とし，ふしぎのうみの様子や生き物をクレパスや平面材を用いて自由に色や形に

表す活動である。「１シーすいぞくかん」の経験を活かし，本題材では，より仲間とのかかわりを深めさせ，表現方法の幅も広がるよう構成した。

本作品は，全員で１枚の画用紙に思いを表した。土台となる大きな画用紙（2000×8400㎜）には，前題材の活動で行った絵の具の跡が全面に残っており，画用紙の上で色が混ざったり滲んだりした色彩となっているものを用いた。

これまで，グループでの製作は経験しているが，全員で１つの作品を製作するのは初めてである。また，画用紙のサイズが図工室の半分近い広さのため，子どもは，海の様子や生き物が描かれていくその世界の中に入り込み，体全体で作品に没入しながら，自分の思いを表すことになる。また，海の様子や生き物を描く際に，自分と仲間との境界がなく，自分が表した海の様子の上に他者が海の生き物を描き足したり，他者の表した海の生き物に自分が模様を付け足したりと，他者から自分へ，自分から他者へと互いに思いが介入し合うこととなる。こういった，本題材の魅力を十分に味わえるような授業となるよう進めた。

(2) 学習計画（全６時間）

1. クレパスを用いて，ふしぎのうみを盛り上げよう。・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２時間
2. 平面材を用いて，ふしぎのうみを盛り上げよう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３時間
3. できあがったふしぎのうみで盛り上がろう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

(3) 授業の実際

第１時では，画用紙に残った絵の具の跡を見たりその凹凸に触れたりしながら，海の様子や生き物を思い浮かべ，クレパスを用いてふしぎのうみを表し始めた。画用紙の大きさに戸惑う様子も無く，大胆にクジラを描いたりカラフルな魚をたくさん泳がせたりと意欲的に取り組む姿が見られた。

第２時は，第１時で表した海の様子や生き物の仕上げを行った。製作中は，新しい絵を描くよりも，第１時に描いた様子や生き物に色を塗ったり，描き加えたりする様子が多く見られた。授業の後半では，色を塗り付けることに熱中したり，仲間と協力して描き込んだりする姿も見られ，全身を使って思いを絵に表す様子が見られた。

第３時は，前時までに表した海の様子や生き物を，平面材を用いて半立体に盛り上げた。製作は自由に行わせ，段ボールや端布，アルミホイルやセロハンを用いて，海の生き物を飾り付けたり海の様子を描いたりしていた。

第 4･5 時は，第３時に平面材で表した製作の続きを行った。製作前に，この時間で仕上げることを伝え，できるだけこの時間に進めるよう声をかけた。製作は，新しいものを表すよりも，仕上げの活動として進める子どもが多く見られた。ここでも，仲間やまわりの様子や生き物から自由に発想を広げながら作品を仕上げていた。

第６時では，できあがった大きな海の絵を教室前の廊下に展示し，鑑賞を行った。鑑賞は，互いに気づいたことや気になったことを話したり表した仲間

に聞いたりと自由な雰囲気で進めた。その後も廊下に展示を続け，他学年や保護者にも見てもらった。

Ⅱ-3　実践 3「りゅうぐうじょうへいこう」の概要（2 月実践予定）

(1) 題材について

本題材は，テープや紐や細い紙で巻かれたり包まれたりしている屋内用ジャングルジムを土台とし，竜宮城の装飾や生き物を自由に形や色で表す活動である。「1 シーすいぞくかんへ　ようこそ！」と「ふしぎのうみをもりあげよう」の経験を活かし本題材では，より子どもたちの思いを表す力が活きるよう，引き続き海の雰囲気を大切にしながら，平面作品から立体作品へと発展させる。そうすることで作品との関わりがさらに深まり，発想や表し方の幅も広がるようになると考えた。

本題材も，全員で一つの作品に思いを表す。子どもは作品の中に入り込み，竜宮城の装飾や生き物が描かれていく世界の中に身を投じながら，対象から影響を受け，思いを表すことになる。土台となる屋内用ジャングルジムには，前題材で行った造形遊びの跡（テープや紐や細い紙が自由に巻き付けられたり結ばれたりしている。）が残っている。その土台に，前半は絵の具を，後半は平面材(端布，セロハン，アルミホイル，段ボール等)を用いて竜宮城を製作する。最後に，竜宮城の物語の主人公になり，みんなで竜宮城を訪れ，その世界を味わう。

(2) 学習計画（全 6 時間）

1. 絵の具を用いて竜宮城をつくる。・・・2 時間
2. 平面材を用いて竜宮城を飾り立てる。3 時間
3. できあがった竜宮城へ行く。・・・・・1 時間

Ⅱ　その他の取り組み

〇国語教材「うみのかくれんぼ」で,海の生き物の身を隠す行動とそのための体のつくりについて学習した。学習を通して,海の生き物の知恵や不思議さについて興味を深めていた。

〇教育美術展出品作品「いってみたいな　こんなうみ」を製作した。絵の具や色画用紙やローラースポンジを用いて,様々な描画材で表した。色や用具の経験を増やすと共に,海の様子や生き物について自分なりに現す姿が見られた。

Ⅲ　まとめ

年間を通して，海とかかわる活動を続けた。

身近な水族館の題材から始め，大きな海の様子へ，そして海にある竜宮城を思い浮かべてと，夢が広がるよう題材の内容を発展させ，それぞれの題材で子どもと海を繋げてきた。1 年生なりに海を捉え，その思いを色や形で表していたように感じる。

今回，個人の製作ではなく、すべて複数人での製作としたが，互いに影響を受け合う姿がたくさん見られた。自分が捉えていた海が，他者と関わることで多面的に捉えられるようになり，海への思いをもっと深められたのではないだろうか。

まだ，実践の途中段階ではあるものの，子どもたちの姿や作品を見ると海への思いが変容したのではないかと考える。現在進行中の実践が終わり次第，その検証を行い，報告会にて結果報告を行う。

また,これらの実践が,子どもたちの素地となり,今後の学習に活かされることを期待する。